

## 14 章 インターネット利用と社会意識



## 14章 インターネット利用と社会意識

### 14.1 はじめに

個人のメディア利用の様相については、従来、社会的属性という観点からこれをグルーピングする方法が従来一般的であった。

しかしながら、価値観の多様化、社会の個人化と言われる今日、メディア利用の様相も、個々人の心理的特性や価値観の観点から見る必要があると考えられる。

この章では、そうした立場から、メディア利用と社会問題に関する関心、心理的特性、価値観などとの関係を考察する。

### 14.2 政治的関心とネット利用

全体としてみると、政治的関心が多少なりともある人は、全体の72.9%である。

これを、ネットの利用度によって分けてみると、PC ネットを利用していない人では70.8%、PC ネットは利用しているがネットコミュニティは利用していない人では75.3%、ネットコミュニティを利用している人では76.3%が、政治に多少なりとも関心をもっていると答えている。ただし、ここでいう「ネットコミュニティ」とは、「チャット、メッセージ、メールマガジン、掲示板、SNS、ホームページ、ブログの少なくとも一つ以上を利用している」という意味である。

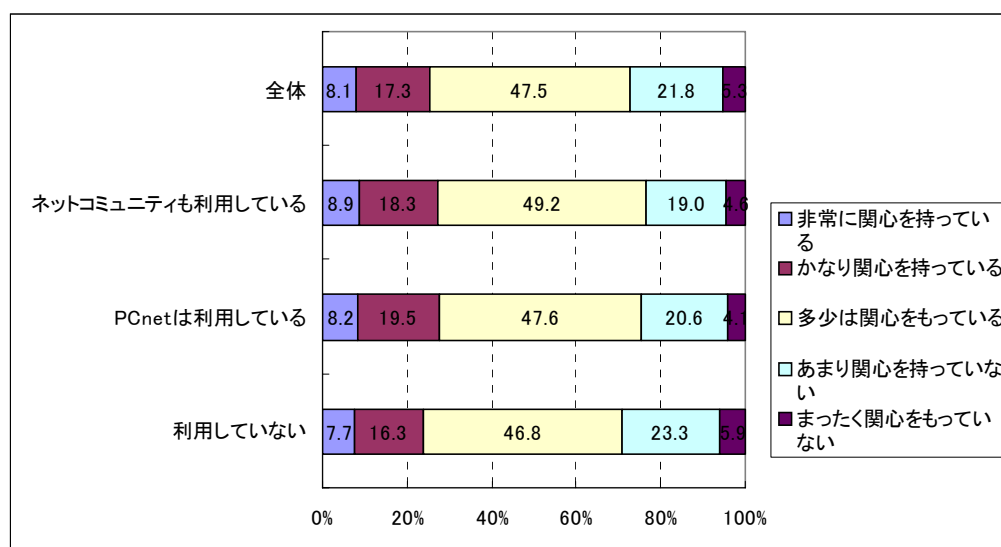


図 14.1 政治的関心とネット利用 (%)

グループごとに関心の度合いの分布を見たものが図 14.1 である。ここからもわかるように、PC ネット利用者の方が非利用者よりも、またネットコミュニティ利用者の方がそうでない者よりも政治的関心の高いものが多い。

同様に、環境問題についても、全体としてみると、関心が多少なりともある人は、全体の88.6%である。

ネットの利用度によって分けてみると、PC ネットを利用していない人では87.4%、PC ネットは利用しているがネットコミュニティは利用していない人では90.6%、ネットコミュニティを利用している人では90.2%が、政治に多少なりとも関心をもっていると答えている。

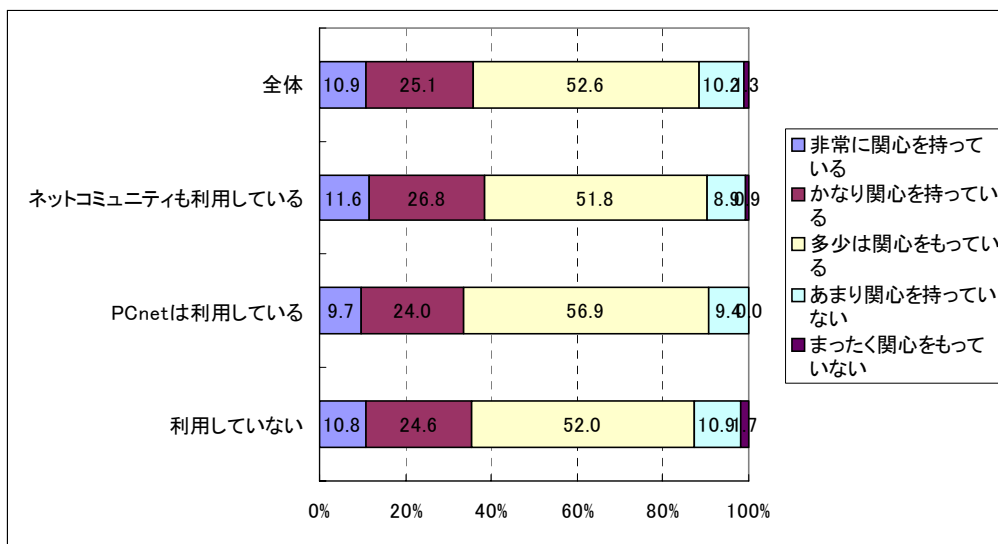


図 14.2 環境問題への関心とネット利用

グループごとに環境問題への関心の度合いの分布を見たものが図 14.2 である。ここでも、PC ネット利用者の方が非利用者よりも、またネットコミュニティ利用者の方がそうでない者よりも政治的関心の高いものが多い。

政治への関心および環境問題への関心について、「非常に関心をもっている」を 4、「かなり関心をもっている」を 3、「多少は関心をもっている」を 2、「あまり関心をもっていない」を 1、「まったく関心をもっていない」を 0 として数値尺度化し、各グループについて平均を出したものが、図 3 である。これによっても、ネットの利用の深度と関心とが、いずれの問題についてもせいの相関をしていることがわかる。

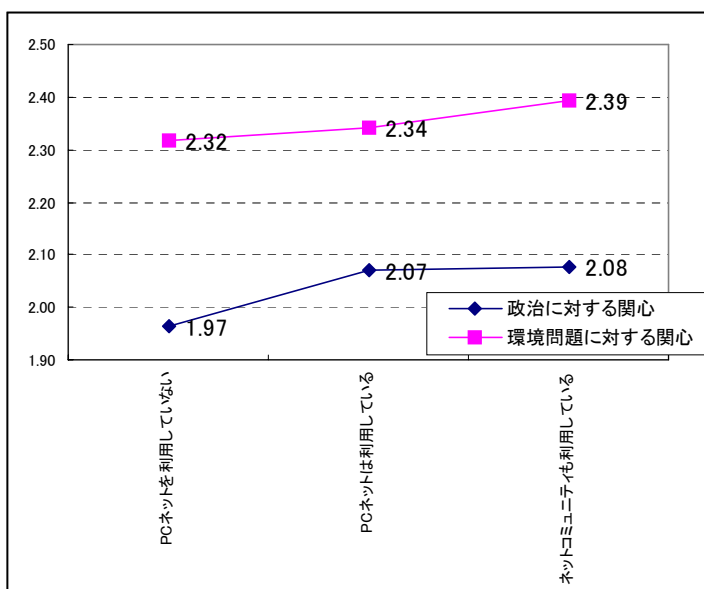


図 14.3 政治・環境問題への関心とネット利用

### 14.3 政治問題に関する心的態度とネット利用

次に、政治に対して人びとがどのように感じているかを見る。

「政治のことよりも自分の生活である」、「われわれが少々騒いだところで政治はよくなるらない」、

「政治のことは難しすぎてわからない」、「権威のある人の考えに従うべきである」、「伝統や慣習には従うべきである」という5つの意見について、「そう思う」「まあそう思う」「そうは思わない」の三段階で答えてもらった。

その結果、全体では、「そう思う」と答えた人と「まあそう思う」と答えた人を合わせた割合が、それぞれ、87.4%、85.8%、67.7%、19.9%、58.6%であった。すなわち、現代日本では、個人化が進んでおり、政治的無力感や政治的無能感が高いが、権威主義的であるよりもむしろ伝統主義的であると考えられる。

この結果を、「そう思う」を2、「まあそう思う」を1、「そうは思わない」を0として数値尺度化してみると、それぞれ、1.25、1.29、0.88、0.23、0.67となる。

また、PC ネットワーク利用によってグループ化して数値尺度の平均を取ったのが、図4である。これによると、個人化傾向と政治的無力感については、いずれのグループも明確な違いは見られない。また、全体に、PC ネットを利用している二つのグループの間の違いは少ない。しかし、PC ネットを利用していないグループは、政治的無能感、権威主義的傾向、伝統主義的傾向について、他のグループとはかなりの違いを見せている。すなわち、PC ネットを利用していないグループは、政治的無能感が高く、権威主義的傾向、伝統主義的傾向が高い。

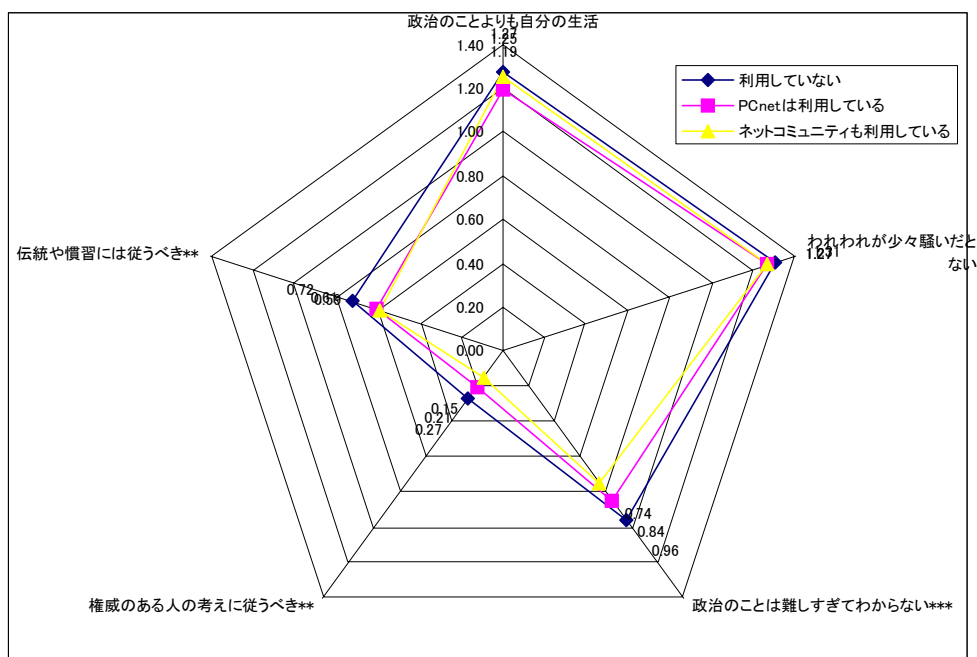


図 14.4 政治に関する意見（数値尺度、\*\*\*：0.1%有意、\*\*：1%有意、\*：5%有意）

#### 14.4 心理的特性とネット利用

次に、ネット利用と人びとの心理的特性の関係を見たのが、図5である。

「世の中の出来事や流行は人よりも早く知りたい方だ(情報感度)」、「欲しい情報があるときは、納得がいくまで探す(情報探索)」、「まわりの人たちと興味や考え方が合わないと思うことがよくある(孤立感)」、「友達には何でも相談できる(友人信頼)」、「まごまごしていると他人に追いこされそうな不安を感じる(競争不安)」、「いつもやらなければならないことに追われているように感じる(焦燥感)」、「日常生活の中で自分の自由になる時間がある(時間余裕)」、「変化のある生活が好きだ(変化志向)」、「将来のことをよく考えながら生活設計している(将来設計)」、「生きる目標がみあたらない(目標喪失)」、「コツコツ努力しても報われない社会だと思う(努力軽視)」

の各項目について、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の4段階で回答してもらい、それぞれを3, 2, 1, 0と数値尺度化した。

その結果、全体としては、時間的余裕が最も高く、続いて情報探索が高く、その後に情報感度、孤立感、友人信頼、焦燥感、変化志向、将来設計、努力軽視がほぼ同じ水準で並び、競争不安と目標喪失が最も低い。現代日本人は、意外にゆとりある生活を楽しんでいるようにもみえる。

表 14.1 心理特性とネット利用

	情報感度***	情報探索***	孤立感**	友人信頼	競争不安	焦燥感***
利用していない	1.41	1.43	1.43	1.51	0.97	1.39
PCnet は利用している	1.48	1.79	1.41	1.48	0.99	1.42
ネットコミュニティも利用している	1.63	2.08	1.55	1.53	1.09	1.59
全体	1.48	1.66	1.46	1.51	1.01	1.45

	時間余裕**	変化志向***	将来設計	目標喪失	努力軽視*
利用していない	2.14	1.33	1.48	0.97	1.52
PCnet は利用している	2.01	1.56	1.49	1.02	1.36
ネットコミュニティも利用している	2.13	1.66	1.51	0.99	1.40
全体	2.12	1.45	1.49	0.98	1.47

この結果を、PC ネットワーク利用の深度によるグループごとに比較してみると（図 14.5）、友人信頼、競争不安、将来設計、目標喪失などについては、グループ間に大きな違いはない。ネットワークの利用／非利用で大きく分かれるのは、情報感度、変化志向、努力軽視の項目で、前二者についてはネットワーク利用者の方が高く、努力軽視ではネットワーク利用者の方が低い。ネットワークコミュニティの利用／非利用で大きく分かれるのは、孤立感と焦燥感で、コミュニティ利用者が高くなっている。また、グループごとの差が大きいのは、情報探索である。ネットワーク利用の深度と強く関連している。

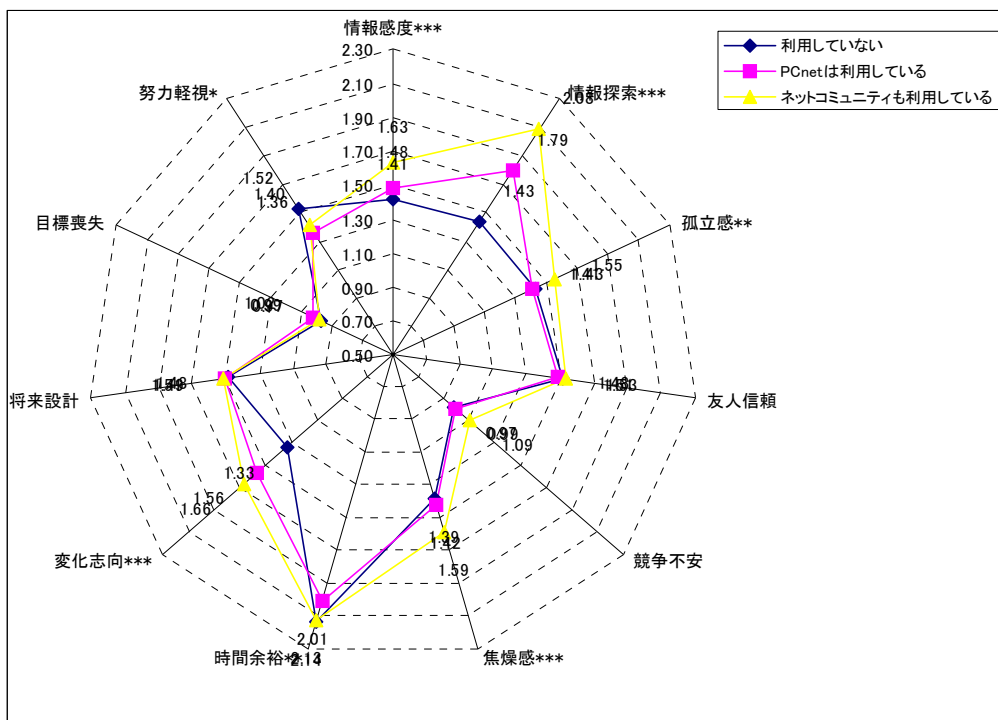


図 14.5 心理的特性とネット利用（数値尺度、\*\*\*：0.1%有意、\*\*：1%有意、\*：5%有意）

## 14.5 価値観とネット利用

最後に、生活の中で何を重視するかについて尋ね、結果を「重要」を3、「やや重要」を2、「あまり重要でない」を1、「まったく重要でない」を0として数値尺度した図6に示す。全体としては、「家族」が最も高く、「収入」、「社会活動」、「財産」、「職業」、「学歴」と続き、「趣味活動」、「地位」が最も低い。

PCネットワーク利用の深度によるグループごとに比較してみると（図14.6）、すべての項目でネットワーク利用者と非利用者の間には明確な差がないが、ネットワークコミュニティ利用者は、特に「収入」について重視の傾向が強い。

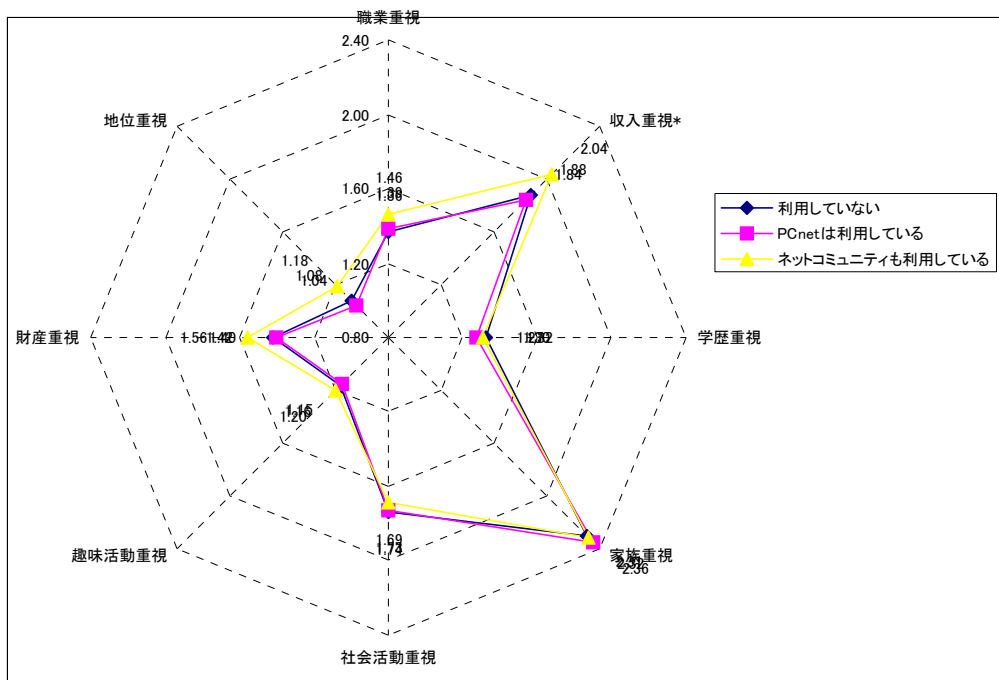


図 14.6 価値観とネット利用（数値尺度、\*\*\*：0.1%有意、\*\*：1%有意、\*：5%有意）

## 14.6 おわりに

以上、この章では、ネット利用と個人の社会意識、心理的特性、価値観との関係を見た。

その結果、今日では PC ネットワークを利用しているものと利用していないものとの間には必ずしもはっきりとした差異は観察されなかった。それは、すでに PC ネットワーク利用がかなり一般化したため、PC ネットワークの利用がその利用者個人の何らかの心理的な要因を表すものとはならなくなったためと考えられる。

かわって、ネットワークコミュニティの利用が、かつてのインターネット利用と同じようなかたちで、利用者個人の心理のある側面を表すようになってきている。（もちろん、ネットワークコミュニティ利用者こうした傾向は以前からあったと考えられるが、ネットワーク利用者数も増えた結果、それが統計的にも有意なものとして観察されるようになったのである）。

その特性とは、政治や環境などの社会問題に対する相対的な意識の高さであり、権威主義や伝統主義の相対的な低さであり、情報感度、情報探索意欲、変化志向、焦燥感などの高さである。すなわち、一般的に、ネットワークコミュニティ利用者は、社会的動能性が高いと考えられる。それは、収入など達成的価値を重視する傾向とも結びついているが、社会活動や趣味的活動とはそれほど結びついていないようである。

### 補遺

図 14.7 に、参考のため、社会的属性ごとのネットワーク利用者の割合を示す。

また、図 14.8 に本調査におけるネットワーク利用者の社会的属性ごとの構成比を示す。



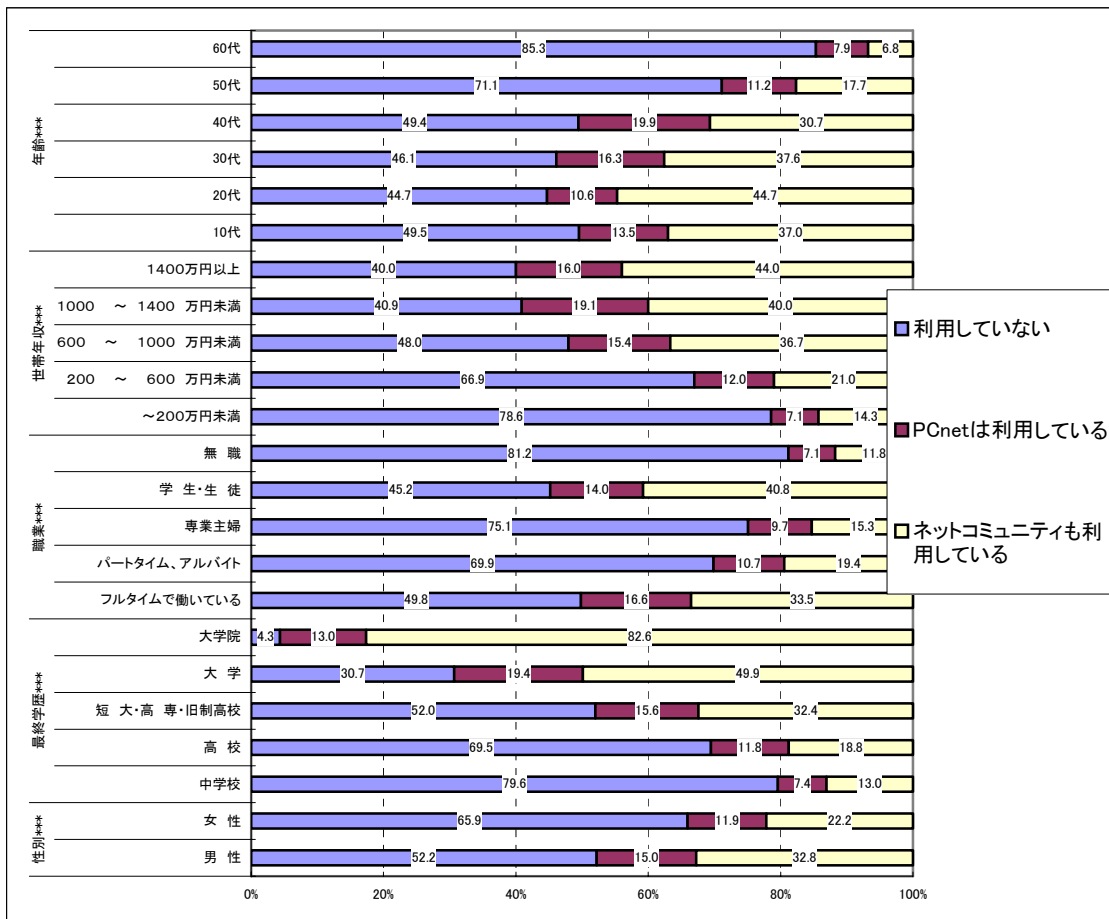


図 14.7 社会的属性ごとのネットワーク利用者の割合（％，\*\*\*：0.1%有意）

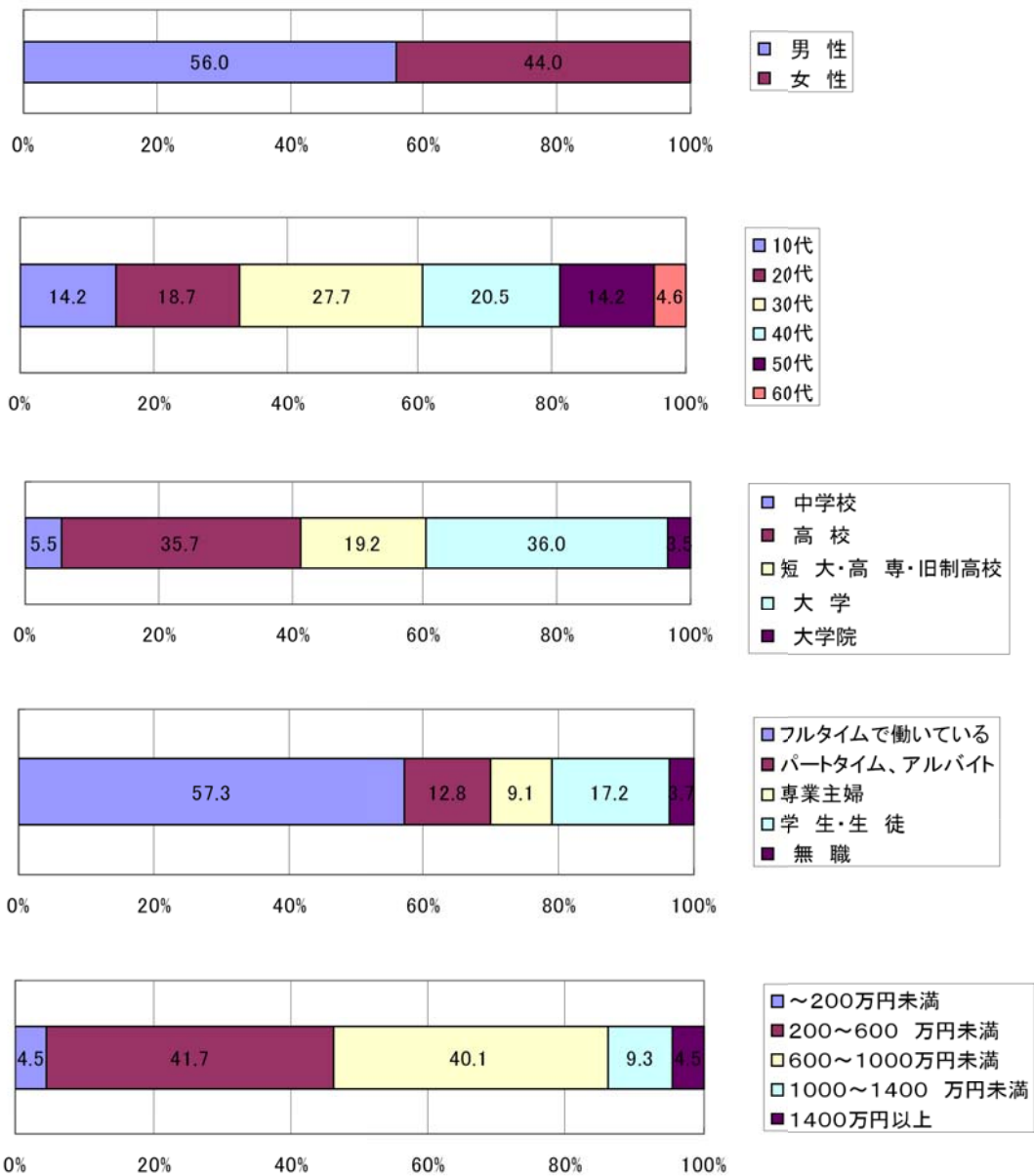


図 14.8 本調査におけるネットワーク利用者の社会的属性ごとの構成比 (%)